

## 令和7年度子育てサポーターズフォーラム (京都府地域サポーター育成事業) 開催!

令和7年11月27日(木)、京都府立口丹波勤労者福祉会館(クアスポくちたん)において、子育てサポーターズフォーラム(京都府地域サポーター育成事業)を開催しました。

南丹管内の幼稚園から高等学校までのPTA、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)、学校関係者、社会教育関係者など、様々な立場で南丹地区の子育てに関わっていただいている方々約40名の参加がありました。

社会が急速に変化していく中で、子どもたちの健全育成に向けて、地域と学校が連携・協働し、社会全体で支えていくことが求められています。その一端を担うコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を進めるために、今年度は、南丹市立園部小学校地域学校協



働活動推進員 小林 康夫 様をお招きし、「地域・学校・家庭で、学びの場づくり」と題して御講演いただきました。推進員として活動を始めたころの悩みや様々な活動について、自身の経験や実践をもとに語っていただき、参加者にとって学びの多い時間となりました。

グループワークでは、様々な地域・職種の方々が混ざってグループとなり、「自分の学校や地域の良さ」を出し合うと、その意見をもとにできる活動をみんなで考えました。それぞれの良さを組み合わせたり、新たな取組を考えたりとグループごとに活発な意見交換が行われました。

テーマ 「学校と地域がパートナーとして連携・協働していくために」

講師 南丹市立園部小学校 地域学校協働活動推進員 小林 康夫 様

内容

- ◆ 講演「地域・学校・家庭の連携で、学びの場づくり」
- ◆ グループワーク～円卓くんを使って～

南丹教育局では、南丹地域の市町教育委員会や幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の取組を支援するとともに、地域ならではの教育振興に取り組んでいます。

ぜひ、ホームページをご覧ください!!

南丹教育局ホームページ  
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局



# 講演「地域・学校・家庭の連携で、学びの場づくり」

## ～講演から～

☆年度初めに、学校の「めざす子ども像」をもとに、担任の先生と一緒に、

“地域の方が先生になる授業”の年間計画を作成している。

☆先生と地域の方が本音で語りあうことが大事である。

☆推進員をして学んだ3つのポイント

- ①地域と学校は win-win の関係であること。→地域の宝である子どもたちのために、連携することで子どもたちの学びが充実し、地域が元気になる。
- ②学校運営協議会を中心に活動すること。→楽しい会にするために、論議したことを少しずつ実現していく。
- ③一歩ずつでも前進すること。→失敗を前向きに捉えながらやり直し、無理せず続けていく。



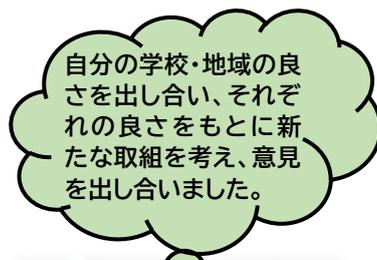
## ～感想～

- ★ いろいろな人と本音で話すことが大事なのだなと思った。また、地域が違う人たちとどんどん交流して行くことで、地域や学校がよりよくなっていくだろうと思った。
- ★ 地域と学校が win-win の関係であること、それぞれの成長や生きがいになっていることが大切であると改めて感じた。
- ★ 何をするにもめざす子ども像の共有化を図ることが大切だと感じた。いろいろな視点から子どもたちの現状を捉え、何ができるのか、共に考える時間や場が必要になると考える。報告だけでなく、これからの子どもたち、地域、学校について話し合えるようにしたい。
- ★ 地域と学校をつなぎ、活動を活性化させるには、コーディネーターや推進員の存在が必要であると感じた。

# グループワーク～円卓くんを使って～



まずは、グループの仲を深めるためのアイスブレイク。円卓くんを使った玉入れ大会を行いました。



自分の学校・地域の良さを出し合い、それぞれの良さをもとに新たな取組を考え、意見を出し合いました。



円卓くんを持って、グループごとに発表いただきました。どのグループも、活発に意見交換し、良さを生かした素敵な取組をたくさん伝えていただきました。

## ～感想～

- ★ 他の方の地域のことや学校のことを聴くことができ、大変良い時間が過ごせた。
- ★ 職種がいろいろだったので、多様な意見の交流ができ、自分の視野も広がり、良い学びになった。
- ★ 良いところをあげる事の大切さ、自分にでもできることを見つめ直すことができた。
- ★ 市町をこえて、様々な立場の者がグループワークをできたことで、新たな気付きを得ることができた。「できない」ではなく、「どうやったらできるか」。やわらかな発想で子どもたちのためにがんばりたい。
- ★ 学校だけでなく、地域の中で活躍する子どもをどのように育てていくのか、それを考えることは楽しいなど感じた。